

古代交通研究会第20回大会 「馬がつなぐ古代社会」

2019年6月22日(土)・23日(日)

【趣旨】

馬は、古来より人間とコミュニケーションがとれる家畜として、移動・輸送・労働など数々の役割を担い、人類の発展に大きく貢献してきました。交通の視点から見ても、迅速な移動・輸送の手段として、遠隔地を相互につなぐ重要な存在でした。

また、古代社会では人と馬の絆はきわめて強く、人間は誕生からその埋葬まで、馬の一生に影響を及ぼし、また依存しあう存在でした。さらに埴輪や土馬・馬形・絵馬、さらには疾走する姿を詠んだ和歌など、馬は人にとって欠くべからざる存在であったとも言えます。

古代交通研究会第20回記念大会では、火山灰の下から発見された人と馬が共存した遺構、出土した馬骨・馬歯の分析などの考古学、そして文献史学による馬と人間の共存形態など、多様な分野の研究成果を扱います。その上で、「馬」が古代の社会、そして交通に与えた影響やその特質を、総合的に理解することを目指します。

【会場】

早稲田大学小野記念講堂（早稲田キャンパス27号館）

【日程】

第1日目 6月22日(土) 個別事例報告（開場12:30）

- | | | |
|-------------|---------------------------|---------------------------|
| 13:00～13:30 | 総会 | |
| 13:45～14:35 | 高橋透氏 | 「馬関連の遺構・遺物からみた陸奥国府とその周辺」 |
| 14:35～15:25 | 杉山秀宏氏 | 「群馬県榛名山テフラ下情報から得たウマ飼育の様子」 |
| 15:50～16:40 | 井上慎也氏 | 「群馬県安中市横野台地の牧と道路」 |
| 16:40～17:30 | 鹿島昌也氏 | 「富山市百塚住吉D遺跡発掘調査の厩舎遺構」 |
| 18:00～20:00 | 懇親会（「森の風」早稲田キャンパス26号館15階） | |

第2日目 6月23日(日) テーマ報告（開場9:00）

- | | | |
|-------------|-------------|--|
| 9:30～10:20 | 花岡興史氏 | 「律令国家の駅制と駅家の比定の可能性—肥後国片野駅 推定地と出土「馬取」刻書土器を中心として—」 |
| 10:20～11:10 | 西山克己氏 | 「科野の馬・信濃の馬と考古資料から東山道を考える」 |
| 11:10～12:00 | 佐藤健太郎氏 | 「日本古代の馬政と交通」 |
| 13:00～13:50 | 諫早直人氏 | 「馬匹生産地の形成と交通路」 |
| 13:50～14:40 | 植月学氏 | 「動物考古学から見た馬匹生産と馬の利用」 |
| 15:00～16:30 | パネルディスカッション | |

【資料代】

2,000円（予定） ※事前の申し込みは不要です。

【連絡先】

川尻秋生（大会実行委員会代表） E-MAIL：a.kawajiri@waseda.jp